発　表　日：	令和２年２月７日（金）
都道府県名：	北海道
学　校　名：	北海道教育大学附属函館中学校
校　　種：	中学校
教科・科目等名：	カリキュラム・マネジメント

令和元年度国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業研究協議会
追加資料

北海道教育大学附属函館中学校

（　内　容　）

資料１　総合的な学習の時間　全体計画
資料２　美術科　各単元の指導計画（単元デザインシート ver5）
資料３　ヒアリング調査での提出資料
資料４　附属函館中学校におけるカリキュラム・マネジメントのイメージ図
資料５　発表資料

資料1　令和元年度 北海道教育大学附属函館中学校　探究（総合的な学習の時間）全体計画

【生徒の実態】
・自らの資質・能力の向上に対する意欲が高い。
・課題を設定することや、収集した情報から課題の解決に必要な情報を整理・分析することを苦手とする生徒が多い。
・自らの学びに基づいて社会に貢献しようとしたり、自らの職業や生き方に生かそうとする意識が低い生徒が多い。

【地域の実態】
・生徒の学習や活動に対する理解が深く、過年度に実施してきた職場体験学習や、探究での市内調査活動等校外活動、土曜の課外授業等では積極的に受け入れる風土がある。

【学校教育目標】
（1）強い意志を持ち自主的に行動し創造性に富む生徒を育てる
（2）心身ともに健康で明るく　情操豊かな生徒を育てる
（3）知性を磨き真理を愛し　自ら努力する生徒を育てる
（4）秩序を守り　仕事に責任を持ち実践力のある生徒を育てる
（5）学校や郷土を愛し　よりよい社会の建設に協力できる生徒を育てる

【探究（総合的な学習の時間）の目標】
探究的な見方・考え方を働かせ、自らの興味や関心に基づいた事象に関する横断的・総合的な学習を行うことを通して、根拠や主張を明らかにしながらよりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
（1）自らの興味や関心に基づいた事象に関する探究的な学習の過程において、課題の解　決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、真理を追究する探究的な学習のよさを理解するようにする。
（2）実社会や実生活の中から自らの興味や関心に基づいた問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を収集し、整理・分析することを通して根拠を明らかにした責任ある　主張や合意を形成するとともに、相手意識のあるまとめ・表現をすることができる　ようにする。
（3）探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、よりよい社会の建設に協力しようとする態度を養う。

【保護者や地域の願い】
・各教科での学習内容の確実な習得を求めている。
・変化の激しい社会に逞しく生き抜くことのできる資質・能力の育成を求めている。
・個人や家庭では体験できない豊かな体験的な活動の機会を求めている。
・集団生活を通して、社会の中で活躍することのできる資質・能力の育成を求めている。

【地域の願い】
・地域の教育に関するモデル校として、先進的な実践とともに、教育課程の開発及び提供を求めている。
・地域に貢献できる人材に求められる資質・能力の育成を求めている。

【スローガン】　「問い続け、行動し続ける１５歳へ」

【内容】目標を実現するための活動や学年、テーマ、人数、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力等

活動内容			グループ探究活動A	グループ探究活動B	卒業研究
学年			第１学年（２７時間）	第２学年（３７時間）	第２～３学年（５５時間）
テーマ			「国際理解」「情報」「福祉」「健康」「安全」「環境」「スポーツ」「観光」「まちづくり」「交通」「人口」「防災」「食」「資源・エネルギー」「教育」「言語」「科学技術」「芸術」「哲学」から選択		生徒個人の興味・関心に基づいたテーマ
人数			同一のテーマに興味・関心を有する７人（同一の学級から構成）	同一のテーマに興味・関心を有する３～４人（学級に関わりなく構成）	１人
指導体制			第１学年教諭による指導	第２学年教諭による指導	全教員（校長、副校長、養護教諭を含む）による指導
家庭・地域との連携・協働			・函館市の高等教育機関、事業所への訪問調査 ・附属小学校児童、保護者、大学教員を対象にした報告会	・函館市の高等教育機関、事業所への訪問調査 ・函館市中央図書館での文献調査 ・保護者、大学教員を対象にした報告会	・函館市の高等教育機関、事業所への訪問調査 ・函館市中央図書館での文献調査 ・保護者、大学教員、地域住民を対象にした報告会
学校行事との関わり			宿泊研修（９月）・市内調査活動（１２月）	市内調査活動（７月）	修学旅行（第２学年２月）
育成を目指す具体的な資質・能力	探究課題の解決を通して	知識及び技能	・自ら設定した課題を解決するために必要な知識を得たり、技能を身に付けている。 ・自ら設定した課題を解決するための学習を通して、探究的な学びの良さを理解している。		
		思考力、判断力、表現力等	課題の設定	・いくつかの課題の中から、解決の見通しを持つことのできる適切な課題を設定している。 ・グループの仲間と話し合ってグループ課題を設定している。 ・グループの仲間との交流を通して課題を発見し、積極的に関わろうとしている。	
			情報の収集	・インタビュー調査や、インターネット及び書籍などのさまざまな手段を活用して、情報を収集している。 ・課題を解決するためのインタビュー調査を行うのにふさわしい人物や施設等を訪問し、必要な情報を聞き取っている。	
			整理・分析	・収集した情報から、課題を解決するためにふさわしい情報を選択し、適切に整理している。 ・疑問に感じた点や困難さを感じた点について、仲間と話し合うことで、よりよく解決している。 ・課題を追究するために収集した様々な情報を多角的に捉え、適切なものを判断して選択している。 ・収集した情報から課題解決に結びつく情報を選択したり、組み合わせたりしている。	
			まとめ・表現	・発表資料の作成や発表の準備をする際には、これまでに学習した知識や技能を活用して取り組んでいる。 ・課題やその追究の過程について、わかりやすい構成を考えながらまとめ、発表している。 ・伝える相手の立場や状況を意識しながら、適切な方法を用いてまとめ、発表している。 ・伝える相手の反応を見ながら声の大きさや身振り手振りを工夫するなどして、発表している。	
		学びに向かう力・人間性等	・グループの仲間とともに協力して課題の解決に取り組むことの良さを実感している。 ・自ら設定した課題を解決する学習を通して、学習したことを自らの生活や学習に生かそうとしている。 ・自ら設定した課題を解決する学習を通して、次に探究する新たな課題を見出そうとしている。		
表現方法			・グループごとにGoogleスライドの作成（５枚） ※附属函館小学校６年生、保護者、大学教員に公開	・グループごとにGoogleスライドの作成（６枚） ※保護者、大学教員に公開	・卒業論文の執筆（12,000～24,000字） ・個人で発表資料の作成 ※全校生徒、保護者、大学教員等に公開

【学習評価】
・探究的な学びの過程のおける収集した情報やそれらに対する記述等を紙媒体や電子的に保存し蓄積する（ポートフォリオを活用した評価の充実）。
・各活動を終えるたびに生徒による自己評価を実施し、その結果を個票にして生徒に還元し、個人内評価を重視する。
・生徒の自己評価をまとめたものを指導に当たる教員が携帯し、生徒の達成状況に合わせた指導を行う（指導と評価の一体化の充実）。
・学年末には指導計画等を評価・改善し、次年度の計画に生かす。

【探究的な学びを支えるための学習活動】

	ねらい	内容
オリエンテーション（１時間）	探究の３年間の学習の展開を見通す。	３年間の探究の学習内容等の説明
探究のための基礎的・基本的なスキル習得と演習A（主に国語科に関する事柄）（５時間）	探究的な学習を行うためのスキルのうち、主に国語科に関する基礎的・基本的な内容を教授すること。	インタビュー調査の仕方や手紙・メールの書き方、レポートの書き方等
探究のための基礎的・基本的なスキル習得と演習B（主に情報活用に関する事柄①）（５時間）	探究的な学習を行うためのスキルのうち、主にICTの活用に関する基礎的・基本的な内容を教授すること。	情報モラルやChromebookの活用、適切なパスワードの設定、G suite for educationの活用等
探究のための基礎的・基本的なスキル習得と演習C（主に情報活用に関する事柄②）（４時間）	探究的な学習を行うためのスキルのうち、主に文献やweb等からの情報収集に関する基礎的・基本的な内容を教授すること。	文献調査のために必要となるスキルやOPACの活用方法、書誌情報の収集方法、図書館の活用方法、web情報の適切な活用等
ツキイチプロジェクト（１２時間×３年）	事象に対する興味・関心や知的好奇心を高め広げるとともに、大学教員等の真理を追究する姿勢をロールモデルとして学ぶ。	大学教員等や地域で活躍する方々を講師として招聘した講演会を実施する。形式は、他者との議論や交流等を含んだものとする。
探究の振り返り（１時間）	探究の３年間の学習を振り返り、今後を展望する。	課題探究による自らの資質・能力の高まりを自己評価するとともに、今後の課題等を整理する。

各教科等との関連

【国語】・文章からの情報収集（筆者の意図の読取） ・手紙やメールの書き方　・論理的な記述 ・探究課題となりうる内容の提示	【社会】・探究的な学びの過程による学習活動 ・資料の読取・活用 ・探究課題となりうる内容の提示	【数学】・「新たな疑問や問い」を生み出す学習活動 ・探究課題となりうる内容の提示	【理科】・探究的な学びの過程による学習活動 ・探究課題となりうる内容の提示
【音楽】・探究課題となりうる内容の提示	【美術】・探究的な学びの過程による学習活動 ・探究課題となりうる内容の提示	【保健体育】・探究課題となりうる内容の提示	【技術・家庭】・探究課題となりうる内容の提示
【外国語】・他者とのコミュニケーション、発表 ・探究課題となりうる内容の提示	【道徳】・指導の重点項目として、「自主、自律」「真理の探究、創造」「社会参画、公共の精神」「よりよく生きる喜び」を設定する。	【特別活動】・多様な他者と協働する様々な集団活動において、課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりする。	

活動名		学びを生かした地域貢献
学年		第３学年（１８時間）
テーマ		「卒業研究」で追究したテーマ
人数		取組に応じた人数を生徒が主体的に編成する
指導体制		第３学年団教諭による指導
家庭・地域との連携・協働		・函館市の高等教育機関、事業所への訪問調査　・函館市中央図書館での文献調査 ・函館市及び近郊地域の行政機関や事業所、高等教育機関等でのプレゼンテーション等
学校行事との関わり		卒業証書授与式（３月）
資質・能力	知識及び技能	・課題に関する現状や制度、概念、仕組みについて理解している。　・調査や諸資料から情報を効果的に調べまとめている。
	思考力、判断力、表現力等	・課題について、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断している。 ・課題の解決に向けて、協働的に追究し根拠をもって議論することを通して合意を形成している。
	学びに向かう力・人間性等	・自立した主体として、よりよい社会の実現を視野に、自ら社会へと働きかけ、主体的・能動的に事柄に参画しようとしている。
表現方法		各生徒が選択する

資料2

単元デザインシート(ver.5)

北海道教育大学附属函館中学校

教科等名	美術科	学年	2	時期	5～6
単元名	名づけられた葉～私の輝かせ方～				

この単元で育成を目指す資質・能力	
知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について実感的に理解を深めること
知識・技能	感性や造形感覚を働かせて、材料や用具を生かし、表現方法を工夫して、創造的に表すこと
思考力・表現力・判断力等	感性や想像力を働かせて、造形的な視点で対象や事象を捉え、造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、豊かに発想し、創造的な表現の構想を練ること
学びに向かう力・人間性等	様々な対象や事象からよさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る感性

この単元で育成を目指す資質・能力の実現状況を見とるための評価規準

3つの柱	評価規準	評価する時数				
知識・技能	多様な表現方法を知り、作品から作者の意図や創造的な表現の工夫を理解し、作品の見方を深め、自分の価値と照らし合わせたことを基に主題を生み出している。	2	3	4		
知識・技能	テーマに応じて自分の感性・想像力を働かせ、独創性に富む表現を工夫するなどして創造的に表現している。	5				
思考力・表現力・判断力等	多様な表現のよさや美しさなどを幅広く、味わうとともに、自分と美術とのかかわりや作品に対する価値意識をもつなど、心豊かに生きることを考え，表現の構想を練っている。	1	2	3	4	5
		6				
学びに向かう力・人間性等	作者や作品を、細かな視点から味わおうと、じっくり見たり、考えたり、感じ取ったり、想像したりするなど、自ら進んで鑑賞や事後学習に取り組もうとしている。	3	6			

この単元とつながりのある「情報活用能力」と「市民として求められる資質・能力」

番号	つながる学習活動
A-2-1	詩や物語の鑑賞を通して，作者の心情や意図を感じとり，自らの考えの根拠を導き出す活動
A-3-1	詩や物語の鑑賞を通して，自己を見つめ命の尊さに気づき，自身の主題を発見しようとする活動
B-3-1	自分の考えやイメージを表現していくことの喜びを学び，効果的な表現方法を身につけながら，自らの役割に気づかせる活動

この単元と「探究」とのつながり

自己の内面との対話を重視した創造的活動において，試行錯誤の繰り返しと，課題解決に向けたプロセスのサイクルは生徒の自主的･自発的な学習を促す。

単元の構成			
時数	学習内容	学習方法	★
1	合唱曲「名づけられた葉」を鑑賞し，曲想から受け取るふさわしい表現（色）を工夫する。	感受した内容を協働で把握し，ポプラの葉を表現する。 ポプラの葉①②　【全体・個】	★1
2	朗読「葉っぱのフレディ」を鑑賞し，物語の主題を理解し，与えられたテーマに沿った表現（色）を工夫する。	感受した内容を分析し，「フレディがもっとも輝いた時」を色彩で表現する。 輝くフレディの葉③　【個】	★1
3	ラジオドラマ「最後の一葉」を鑑賞し，物語から受けとる主題を自分なりに解釈し，色と形で表現する。さらに，これまでの学習から関連した主題を発見する。	感受した内容を追究し「一葉に込められた想い」を色と形で表現する。これまでの学習の振り返り話合い（ルーブリックの作成）を行う。 願いの一葉④　【個・グループ】	★1
4	詩「名づけられた葉」を鑑賞し，詩の解釈を深め，自己の価値を広げ，自分自身の存在が投影されている葉のイメージを構想する。	これまで感受した内容を整理し，新たな価値づけと，詩の解釈を通して自己の内面を深く見つめ私の輝かせ方を考える。 名づけられた葉⑤　【グループ･個】	★2
5	これまでの学習を振り返り，自分を表現するレリーフ「私の葉」の制作する。	レリーフ「私の葉」の制作をする。 名づけられた葉⑥ 【個】	★3 ★5
6	お互いの作品「私の葉」を鑑賞し，作者の心情や意図と自分の見方や，感じ方を比較して，自分なりの価値の広がりを感受する。	レリーフ「私の葉」をグループで発表し，自他の感受の違いを認め合う。　【全体･個】	★2 ★4

評価資料		
	★1	自己を振り返るワークシート
	★2	学びの定着を探るワークシート
	★3	表出された作品
	★4	制作の過程を可視化したポートフォリオ
	★5	ルーブリックによる自己評価

資料3

単元デザインシート（ver.3）

北海道教育大学附属函館中学校

教科等名	社会科	学年	1	時期	5～6
単元名	世界の様々な地域「世界各地の人々の生活と環境」				

この単元で育成を目指す資質・能力を踏まえた評価規準

(a) (b) (c)	3つの柱	評価規準	評価する時数				
(a)	知識・技能	人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解すること	2	4			
(a)	知識・技能	世界各地における人々の生活やその変容を基に、世界の人々の生活や環境の多様性を理解すること。その際、世界の主な宗教についても理解すること	8	9			
(a)	思考力・表現力・判断力等	世界各地おける人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現すること	3	5	7		
(a)	学びに向かう力・人間性等	世界各地の人々の生活と環境の多様性について、多面的・多角的な考察や自然的条件や社会的条件などの背景を通して深く理解をしようとする態度や、興味・関心など	6	7			
(b)	知識・技能	情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能	1				
(c)	知識・技能	現実社会の諸課題に関する現状や制度、概念、仕組みについての理解	8	9			

追加.

単元の構成

時数	学習内容	探究の過程	★
1	単元のオリエンテーション（学習時の視点と単元の目標について） 世界の５つの気候帯と１１の気候区について 雨温図の読み取り方について	課題の設定 情報の収集	
2	寒帯と冷帯（亜寒帯）、温帯の気候区についての授業者による概要説明とその分布について	情報の収集	~~1~~
3	寒帯、冷帯（亜寒帯）、温帯の地域に住む人々の生活の様子についての資料判別と分類	整理・分析 まとめ・表現	~~1~~ ~~2~~ ~~5~~
4	乾燥帯、熱帯、高山気候についての授業者による概要説明とその分布について	情報の収集	~~1~~
5	乾燥帯、熱帯、高山気候の地域に住む人々の生活の様子についての資料判別と分類	整理・分析 まとめ・表現	~~1~~ ~~2~~ ~~5~~
6	各気候帯の特色や衣食住その他の視点に基づく比較と整理	整理・分析 まとめ・表現	3
7 ~~(本時)~~	気候と人々の暮らしに関する情報を活用した判断	整理・分析 まとめ・表現	4 5
8	世界の主な宗教について、授業者による概要説明と主題図に基づき分布を調べる	まとめ・表現 課題の設定	~~1~~
9	世界各地の暮らしの変化について、授業者による概要説明とその変化についての考察	整理・分析	~~1~~
~~10~~	~~単元のまとめ~~	~~まとめ・表現~~	~~1~~ ~~6~~

2～4 6つの気候帯に関するエキスパート活動. 資料作成.

2

5～6 ジグソーのもとのグループでの発表

7 → 7

複数の

2～4で作成した資料にもとづいた

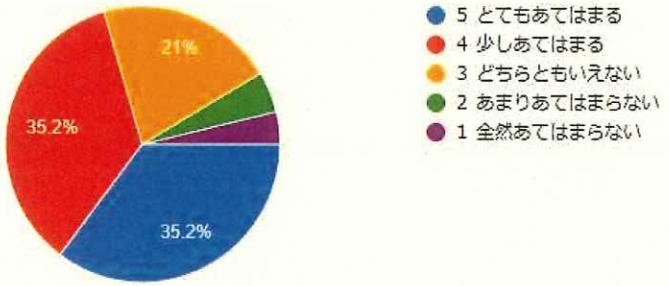
カリキュラムを評価するために得ようとする「評価資料・情報」

~~★1~~	~~単元のワークシート（各気候帯の特色について）~~
★2	生徒作成表（５気候帯＋高山気候）
~~★3~~	~~ワークシート①（単位時間６で使用）~~
~~★4~~	~~ワークシート②（単位時間７で使用）~~
★5	活動時の生徒の表情や話し合いの様子
~~★6~~	~~単元のまとめ~~

イキ.

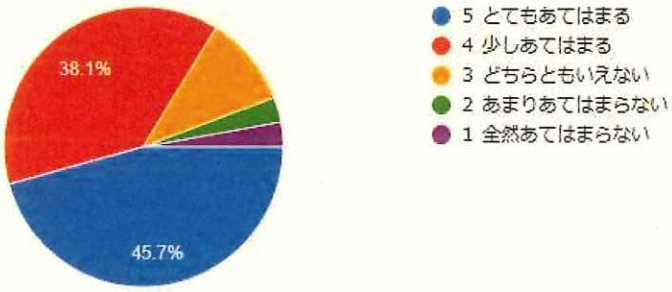
4、一元一次方程式を具体的な場面で活用する力が身についている。【思考力・表現力・判断力等】

105 件の回答



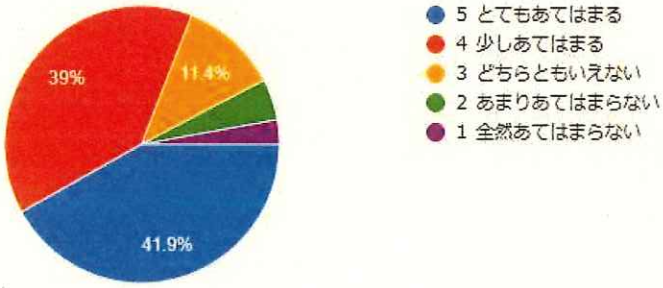
5、数学的に考えることのよさ、数学的な処理のよさ、数学の実用性などを実感し、様々な事象の考察や問題解決に数学を活用する態度が身についている。【学びに向かう力・人間性等】

105 件の回答

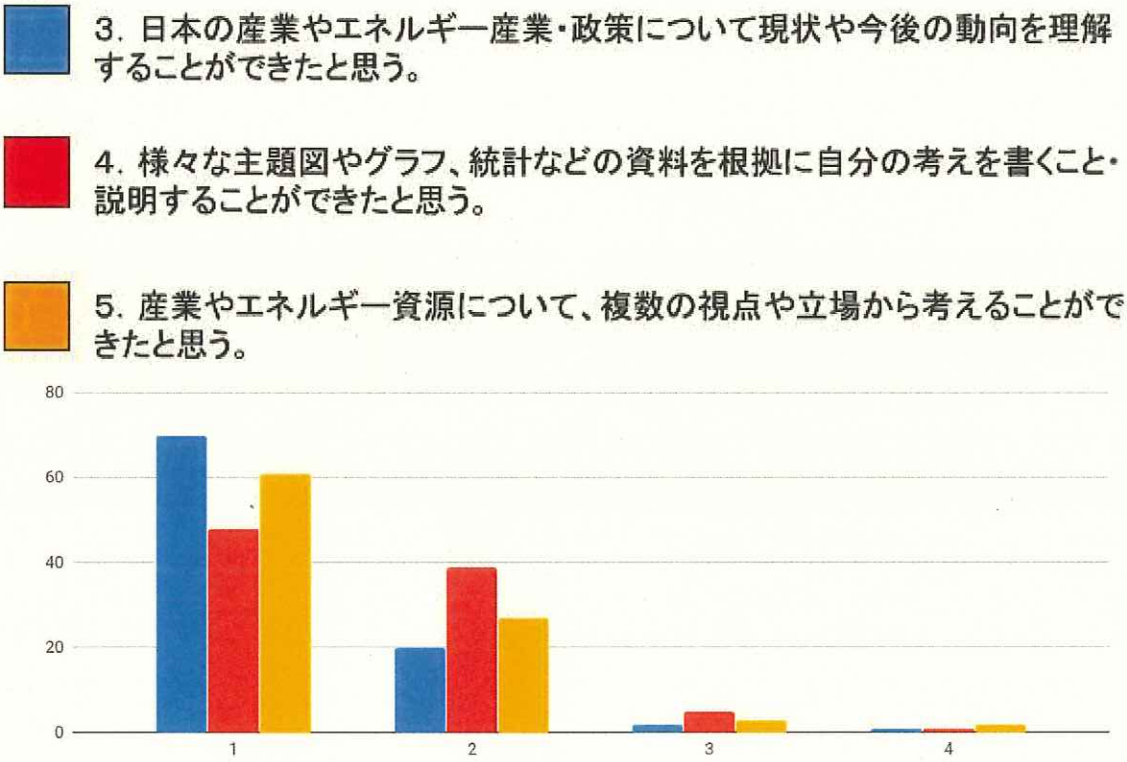


6、具体的な事象の中から数量の関係を見いだし、方程式をつくる技能が身についている。【知識・技能】

105 件の回答



<単元終了後の生徒アンケート(自己評価)結果～3項目について～>
3. 日本の産業やエネルギー産業、政策の特徴について、現状や今後の動向について理解できたと思う。
4. 様々な主題図やグラフ、統計などの資料を根拠に自分の考えを書くこと・説明することができたと思う。
5. 産業やエネルギー資源について、複数の視点や立場から考えることができたと思う。



○内容に関する理解（３）については、個人評価（４：とても思う）＋（３：思う）の合計で９割近くできた（４＝７割、３＝２割）と回答している。

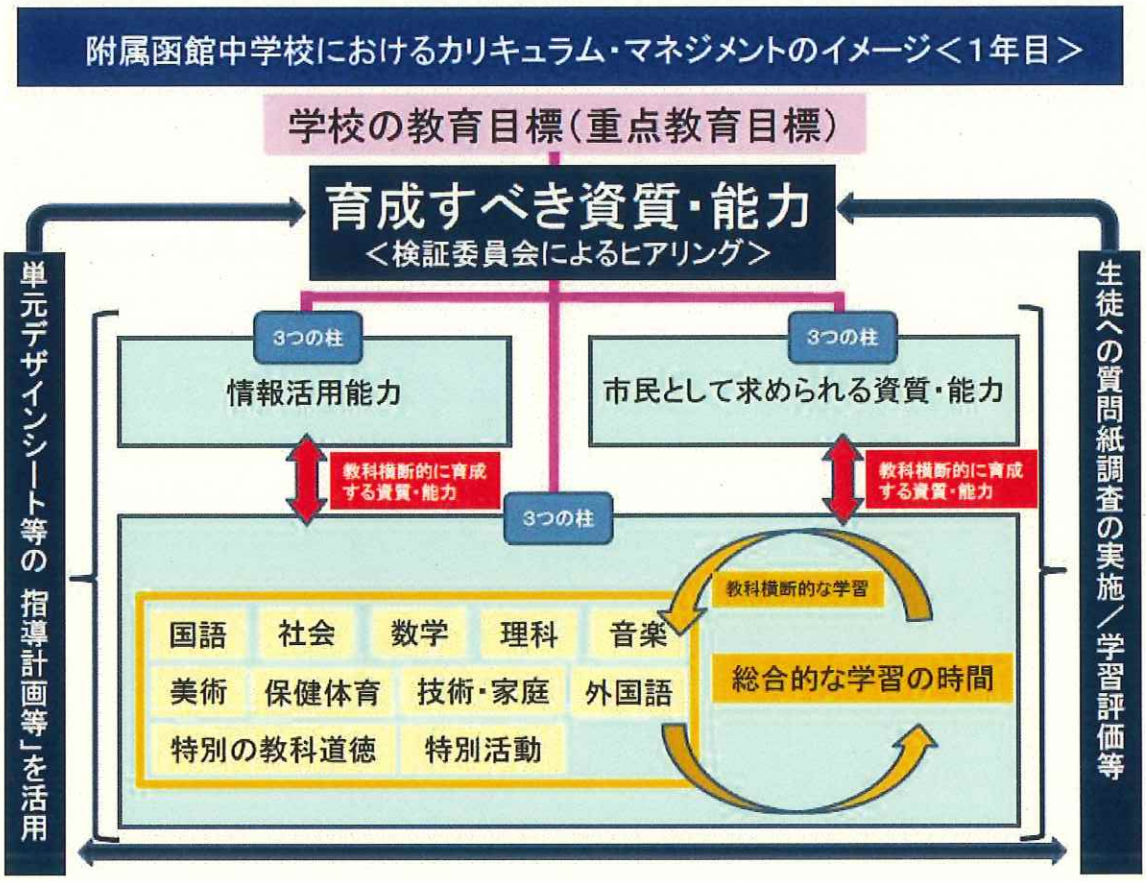
○一方で、資料を根拠に自分の考えを書く・説明する（４）については、合計が９割近くで来たという点に違いはない。ただし、その内訳が、４＝５割、２＝４割であり、（３）に比べ「４：とても思う」と回答した生徒の割合が少なくなっている。
　また、複数の視点や立場から説明するについても同様で内訳が４＝６割、３＝３割弱と、（３）の項目に比べて割合が少なくなっている。

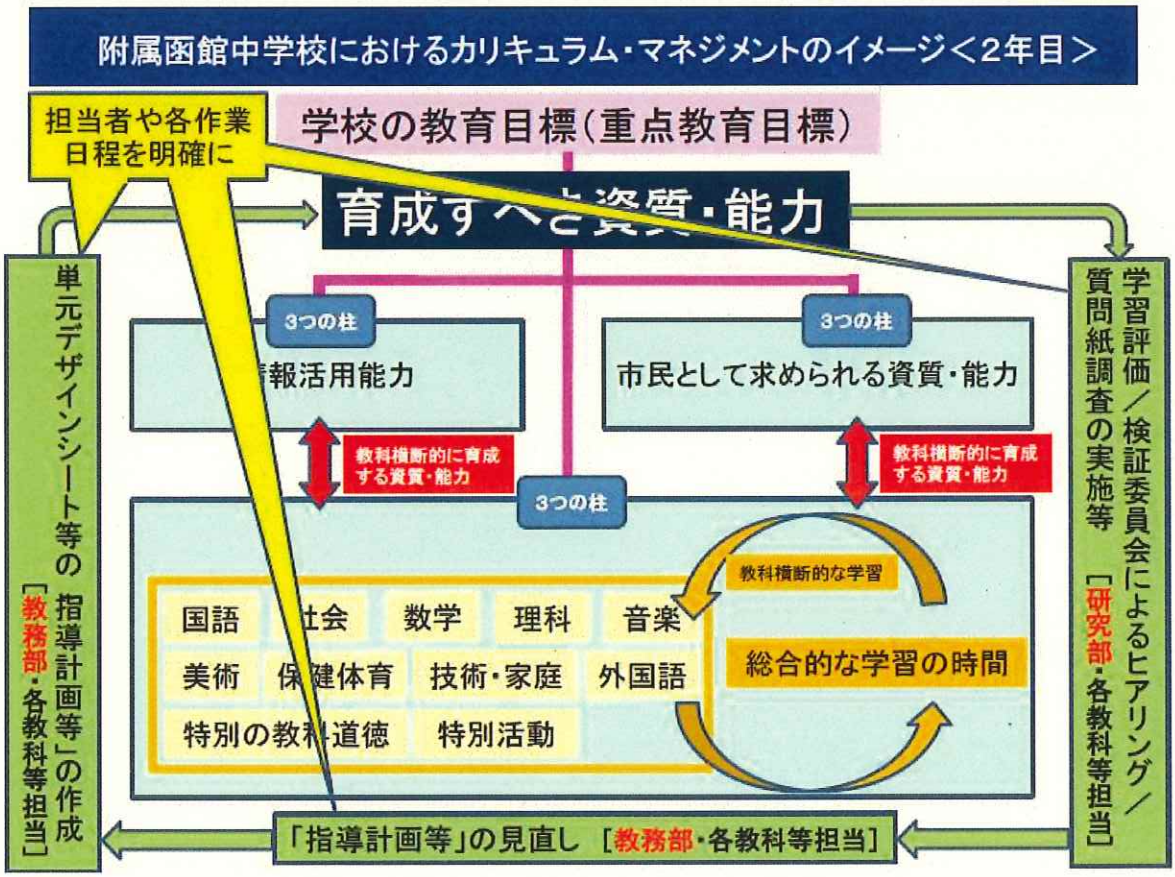
○したがって、探究等の取り組みにおいても多面的・多角的な立場から物事を考察したり、自分の論を展開する際に説得力ある根拠を示すことを一層意識づけるため、今後の授業では以下の点をふまえた修正を加えていきたい。

⇩

○特に歴史的分野の中で「複数の立場・視点をふまえること」を意識した話し合い活動、まとめ活動の割合を多くすること。
○特に地理的分野の中では「根拠や出典を明示すること」を意識して資料の作成やまとめ活動を行う割合を多くすること。

資料4


附属函館中学校におけるカリキュラム・マネジメントのイメージ＜1年目＞
学校の教育目標（重点教育目標）
育成すべき資質・能力
＜検証委員会によるヒアリング＞
単元デザインシート等の「指導計画等」を活用
生徒への質問紙調査の実施／学習評価等
3つの柱
情報活用能力
3つの柱
市民として求められる資質・能力
教科横断的に育成する資質・能力
教科横断的に育成する資質・能力
3つの柱
教科横断的な学習
国語
社会
数学
理科
音楽
美術
保健体育
技術・家庭
外国語
特別の教科道徳
特別活動
総合的な学習の時間


附属函館中学校におけるカリキュラム・マネジメントのイメージ＜2年目＞
担当者や各作業日程を明確に
学校の教育目標（重点教育目標）
単元デザインシート等の「指導計画等」の作成［教務部・各教科等担当］
学習評価／検証委員会によるヒアリング／質問紙調査の実施等［研究部・各教科等担当］
3つの柱
3つの柱
市民として求められる資質・能力
教科横断的に育成する資質・能力
教科横断的に育成する資質・能力
3つの柱
教科横断的な学習
国語
数学
理科
音楽
技術・家庭
外国語
特別活動
総合的な学習の時間
「指導計画等」の見直し［教務部・各教科等担当］

令和元年度国立教育政策研究所教育課程研究センター
関係指定校事業研究協議会（2020.2.7）

研究課題

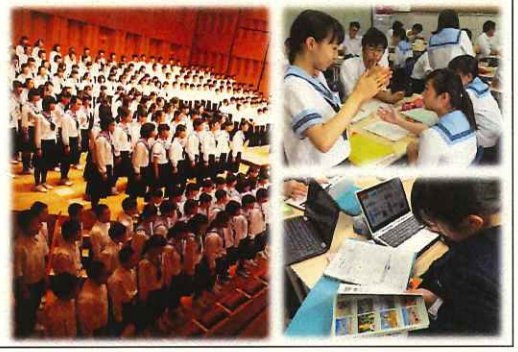
資質・能力の育成を実現するための 効果的なカリキュラム・マネジメントに関する実践研究

北海道教育大学附属函館中学校

本校の概要

開　校	昭和22（1947）年4月1日
教員数	常勤：18名（大学教授と兼務の校長を含む） 非常勤（教科）：7名
生徒数	313名（令和元年度） （1学年105名、2学年104名、3学年104名） ※平成26年度入学生徒から35人学級へ移行
特色ある取組	BYODによるChromebookの活用 ※校内各所にAP設置（関係者専用） ※活用時間や場所を固定しないシームレスな活用

HP
http://www.hokkyodai.ac.jp/fuzoku_hak_chu/



1　研究主題設定の理由

①研究の経緯と課題

学校研究（平成29～31年度）：「新学習指導要領の趣旨を実現する教育の展開」

これまでの取組

○学校として育成を目指す資質・能力の設定
「各教科等において育まれる資質・能力」「情報活用能力」
「市民として求められる資質・能力」

○教科等横断的な資質・能力の育成するために、各教科等の指導計画等を共通の様式で作成
※指導計画等：「年間単元配列シート」「資質・能力シート」「単元デザインシート」

課題

○カリキュラム・マネジメントの充実について，組織的かつ継続的に取り組むこと

②研究の目的

中学校において、資質・能力の育成を実現するための効果的なカリキュラム・マネジメントの在り方に関する実践研究を行う。

2　研究１年次の成果と課題

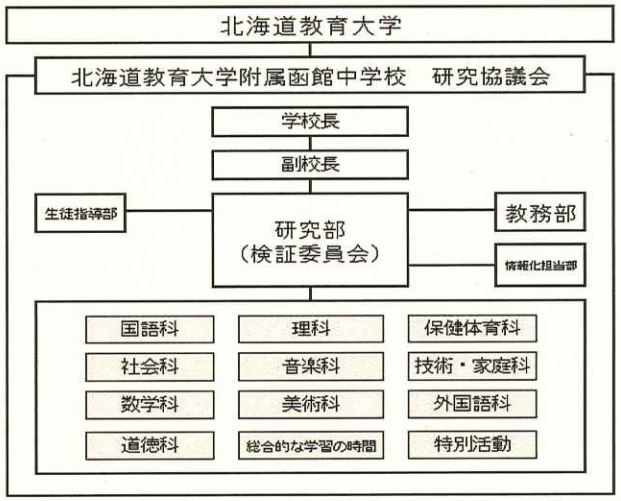
成果

- 学校教育目標に基づく、育成を目指す生徒の姿と資質・能力の明確化
- 実現のために、総合的な学習の時間を核とした位置付けによる教育活動全体の整理
- ヒアリング調査による、具体的なカリキュラムの評価のための資料や改善の具体の把握
- 少人数で実施することによる議論の深まり
- 全校体制でカリキュラム・マネジメントを展開するために、共通して取り組む事柄と教科等に応じた事柄の２つの側面からのアプローチの必要性の明確化
- 「情報活用能力」と「市民として求められる資質・能力」について、各教科での学びと総合的な学習の時間での学びとの往還によって、高まりを実感している生徒の様子
（生徒による総合的な学習の時間の自己評価及び意識調査の結果から）

課題

- 学年主任を対象にした、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動に関するヒアリング調査の実施の必要性
- ヒアリング調査の学期に１回の頻度での実施と全教員で協議する機会の設定による、共通理解の形成と交流の必要性

3　研究体制



4　研究内容

①カリキュラム・デザイン

1）平成３０年度に作成した指導計画等の再整理と，総合的な学習の時間を中核とした教育課程の編成

2）カリキュラムの評価に活用することができる単元の評価規準の工夫

②ＰＤＣＡサイクル

3）組織的かつ継続的に取り組むための体制の構築

4）各教科担当者，学年主任を対象としたヒアリング調査の実施

5）ヒアリング調査の結果を踏まえた，全教職員での研究協議会の実施

6）共通理解に向けた教職員に対する意識調査の実施

③内外リソースの活用

7）総合的な学習の時間における様々な分野の専門家による講演会の実施

5　具体的な研究活動

①カリキュラム・デザイン

1）平成３０年度に作成した指導計画等の再整理と，総合的な学習の時間を中核とした教育課程の編成

平成３０年度作成の指導計画

資質・能力シート

どの単元でどの資質・能力の育成を目指すのかを明らかにしたもの
（縦）育成を目指す資質・能力
（横）資質・能力の３つの柱

単元デザインシート

各単元の指導計画

5　具体的な研究活動

①カリキュラム・デザイン

1）平成３０年度に作成した指導計画等の再整理と，総合的な学習の時間を中核とした教育課程の編成

単元デザインシートの改善

資質・能力シートの廃止

この単元とつながりのある「情報活用能力」「市民として求められる資質・能力」

位置づけを整理し直し、当該単元で育成することができる資質・能力として示す

単元デザインシート（ver. 5）

この単元と総合的な学習の時間とのつながりを示す

5　具体的な研究活動

①カリキュラム・デザイン

2）カリキュラムの評価に活用することができる単元の評価規準の工夫

単元デザインシートの改善

この単元で育成を目指す資質・能力の実現状況を見とるための評価規準

・評価規準は、当該単元で育成することを目指す各教科等の資質・能力について設定する
・評価規準を基に、学習指導のねらいが生徒の学習状況として実現された生徒の具体的な状況を想定する

単元デザインシート（ver. 5）

5　具体的な研究活動

②ＰＤＣＡサイクル

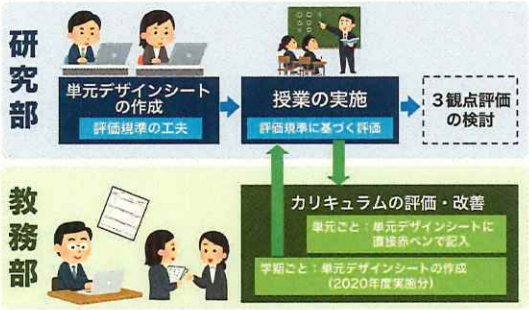
3）組織的かつ継続的に取り組むための体制の構築

教務部と連携によるカリキュラム編成

○研究部の役割
教評価規準の工夫に関する内容

○教務部の役割：
年間単元配列シート、単元デザインシートを活用した教育課程の編成及び評価・改善

2019年度　北海道教育大学附属函館中学校
「カリキュラム・マネジメント」の展開モデル



5　具体的な研究活動

②ＰＤＣＡサイクル

4）各教科等担当者，学年主任を対象としたヒアリング調査の実施

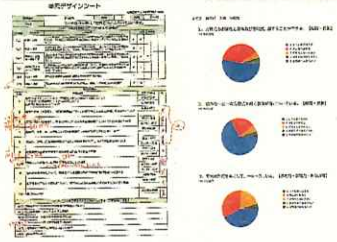
ヒアリング調査

実施：検証委員会（北海道教育大学教員、副校長、研究主任、教務主任）

対象：各教科担当者、学年主任

時間：１教科につき１時間程度

内容：・平成３０年度に作成した単元デザインシートに対して、どのような視点でカリキュラム評価を行ったか。（そのように考える根拠となるものを提示）
・今年度作成した単元デザインシートで明示した評価規準は適切であったか。



5　具体的な研究活動

②ＰＤＣＡサイクル

5）ヒアリング調査の結果等を踏まえた，全教職員での研究協議会の実施

全教職員での研究協議会

目的：本校が育成を目指す生徒の姿や資質・能力に関する内容や研究に対しての共通理解を図る

主な流れ：①研究部からの全体説明
②各教科主任・学年主任からのヒアリング調査での内容説明
③カリキュラム・マネジメント推進に関わるグループ協議
「カリキュラム・マネジメント推進に対する共通理解の図り方とは」等

ヒアリング調査
各教科　提出書類

函館国際中学校研究部

5　具体的な研究活動

②ＰＤＣＡサイクル

6）共通理解に向けた教職員に対する意識調査の実施

教職員に対する意識調査

研究に対する教職員全体の意識の把握

意識調査の結果

○カリキュラム・マネジメント対する理解度は高い

○担当教科内でのカリキュラム・マネジメントの編成や見直しの考え方についての共通理解は図られている

●全教職員でのカリキュラム・マネジメントの編成や見直しの考え方については、さらに共通理解を図る必要がある

5　具体的な研究活動

③内外リソースの活用

7）総合的な学習の時間における様々な分野の専門家による講演会の実施

○探究的な学習の過程の「課題の設定」と「情報の収集」のために、大学教員や地域で活躍する方を講師として招へいした。
○令和元年度は全３回実施した。
- 「早寝・早起き・朝ごはん」藤原　一夫 氏（子育て科学アクシス）
- 「サンゴ礁と地球温暖化」　茅根　創　氏（東京大学大学院　教授）
- 「津波の予測」　丹羽　淑博 氏（東京大学大学院　特任准教授）

探究的な学びを創るためのリレー講演会
北海道教育大学附属函館中学校
ツキイチプロジェクト2019
日程
13：15　生徒入場
13：20～15：00　講演（途中休憩10分間）
15：00　終了
第1回　11月15日（金）
子育て科学アクシススタッフ・臨床スクールカウンセラー
藤原　一夫 氏
早寝・早起き・朝ごはん
第2回　12月19日（木）
東京大学大学院教育学研究科附属地球変動センター 副センター長・空間情報研究部 教授
茅根　創 氏
サンゴ礁と地球温暖化
第3回　1月24日（金）
東京大学大学院教育学研究科附属地球変動センター 特任准教授
丹羽　淑博 氏
津波の予測
※第2・3回は文部科学省「活用教育システム導入実証研究事業」の一環として活用システムを利用して実施します。

6　研究２年次の成果と課題

成果

- カリキュラム評価のための**評価材料の蓄積**
- **各部署の役割の明確化**による、**組織的かつ継続的な体制**の構築
- 質問紙調査やヒアリング調査等を踏まえた、**研究協議会の実施**による共通理解の形成
- **多角的な評価**を基にしたカリキュラム評価の工夫・改善

（指導計画等の活用による評価、ヒアリング調査、生徒対象の質問調査、教職員対象の質問紙調査）

課題

- カリキュラム・マネジメントについての**全教職員の共通理解**
- **教科横断的な視点での学習指導**の充実に向けた更なる取組

7　今後の取り組み

新学習指導要領全面実施に向け，２年間の研究結果を踏まえて，教科横断的な視点での学習指導を行うための指導計画等を工夫する